

# こゝなとこゝろに 市民憲章

1.富士山のように強く正しく  
きまりを守り 平和で安全な  
社会をつくります

## 二輪車を安全運転



△クラブの皆さん

私たちが安全で正しい社会生活をおくるにはみんなでルールを守ることも大切なことです。

「富士市二輪車安全運転クラブ」(鈴木雅国会長)の皆さんは、ふえ続ける二輪者事故を防止するため模範運転はもちろん、交通安全につながる各種の活動に協力をしています。

7月に行われた二輪車安全運転県大会では、団体戦で代表チームが優勝、個人の部でも3人が入賞しました。

問い合わせ先 モートピア ライディングスクール佐藤さん ☎53-0819



△左から克哉さん、麻耶さん、真紀子さん

「初めまして!! 市民一年生です!!」  
田舎の友達に富士山を自慢、  
心配は東海地震かな。

今回は、昨年七月に千葉県松戸市から転勤でみえた高橋克哉さん(富士見台一丁目)のお宅におじゃましました。さて、富士市の住み心地はどんな?

高橋ファミリーは、保険会社にお勤めの克哉さん(三十四歳)、奥さんの真紀子さん(三十一歳)、長女の麻耶ちゃん(三歳)の三人家族です。

「松戸市はどんな街?」  
「東京都と江戸川を挟んだ対岸にあり、人口は約四十四万人。住民の半分強は職場を東京に持ち千葉都民と言われています。」

「富士市の第一印象は」  
「産業の街、富士山の街として前から知っていましたが、もっと大

きい街と思っていました」  
「富士市の率直な感想を」  
克哉さん「気候は温暖で、住宅地では緑も多く住みやすいところだと思います。また、富士山周辺や伊豆方面など遊ぶところも多く、東京へも新幹線で一時間ちよつと立地的にも恵まれていますね」  
真紀子さん「私は秋田生まれなので、富士山がよく見えるのにはびつくり。田舎の友達に自慢しています。ただ、松戸では公園はいつも込んでいたのに、富士は人があまりいないのが不思議」

「行政への要望は」  
克哉さん「富士市は産業の街ですが、これからは文化も大切。文化と産業の接点を見失うことのないようお願いします。心配なのは東海地震。防災対策をますます進めてください」  
真紀子さん「車社会の街で、運転できないと動きがとれません。交通機関の充実を。それから、ごみの回収回数が少ないのでは」



大腸がん検診。腸がん検診の方が、自分で病院

二 十一世紀のがん。  
どこの家でも多かれ少なかれ食生活は、米や野菜中心の食事から、肉や乳製品など、動物性脂肪の多い食事になってきています。「食生活の欧米化や高齢化で、二十一世紀に確実にふえるがんは乳がんが大腸がん。しかも大腸がんは、今トップの座を占めている胃がんを追い越すかも」と、富士市医師会の三村正毅先生。以前は、東京築地の国立がんセンターで活躍され、がん患者の「生と死」に向き合っていました。

21世紀のがんを診る  
「富士市医師会」委員長  
大腸がん検診委員

みつ むら まさ たけ  
三村正毅さん

(永田町・48歳)



に行つて見つかる患者よりも、早期発見できます。また、治療費用も少なくすむとのデータもあります。数多くのデータ分析をもとに、昭和五十八年、富士市医師会は、三村先生を委員長に大腸がん検診を始めました。市町村では調布市に次いで、全国第二番目の実施です。大腸がんの検診方法は、容器に二日分の便を取り、潜血の有無を調べます。

「今では、前日にステーキを食べても大丈夫。人間の血だけに反応しますから。食事制限もないから、楽なものです」

決 め手は早期発見。  
「一」とはいえ、市民の検診率は低く進行がんがふえています。市民と医師と行政の三者が、がちりスクラムを組んだら、手おくれのがんは防げるはず。まず検診を! 早期発見できれば、一〇〇%治ります」

二十世紀のがんを診る先生は、熱っぽく語ります。